

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立神野小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成28年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

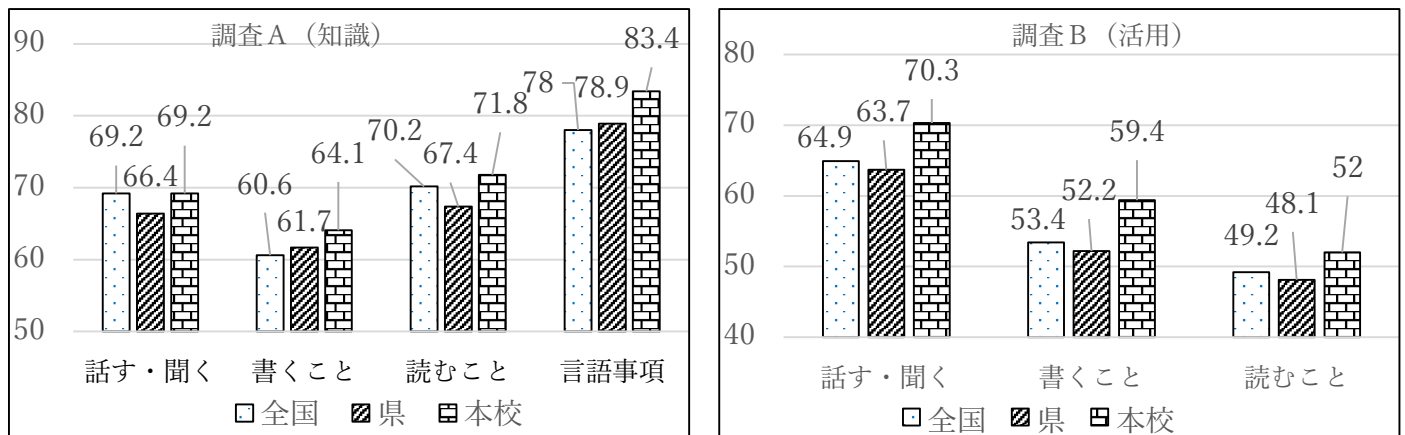
全国学力・学習状況調査は小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国及び県正答率との比較



調査Aの「話す・聞く」領域が全国平均と同じとなっている以外は、全ての領域で本校の正答率が全国平均を上回っています。調査Bの「話す・聞く」「書くこと」の領域は全国平均を約6ポイント上回っていました。それぞれの領域で求められる力を意識した授業を日常的に行うとともに、計画的な家庭学習や読書活動の奨励をしています。このような取組が結果に表れていると考えられます。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う問題で県平均を上回っていましたが、全国平均とは同じ結果でした。

書く

・手紙の構成を理解し、後付けを書く問題では、全国平均を大きく(10ポイント以上)上回っていました。一方で目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くという問題は、全国平均を下回っていました。今後は、読むことと関連した指導に力を入れていきます。

読む

・無回答率は0%で短時間に大意を読み取る力がついてきています。情報量が多い文章を読み取り、内容を読み取り、要点を整理することに課題がみられます。今後も目的意識をもって文章を読ませたり、文章全体の要旨を捉えたりすることができるような指導をしていきます。

言語事項

・ことわざの意味を理解して自分の表現に用いる問題では、全国平均を上回りました。古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読む問題も、全国平均を10ポイント以上上回っています。漢字の学習では様々な使い方を調べたり、学んだ漢字を使って作文を書いたりする学習も重視していきたいと考えています。

(3) 学力向上のための取組み

【学校では】

- 「話す・聞く」場面を多く設定し、話す時の観点を示して話をさせ、聞く側も同じ観点で聞くような学習を取り入れます。
- 読むことと書くことを関連させた学習を重視し、読み取ったことを基に話し合ったり、話し合ったことを基に書いたりする活動に取組ませることで、双方の力を伸ばしていきたいと考えています。
- 文字言語で表現された文の奥深さに触れさせたり考えさせたりすることで、言葉に関する感性を高める指導を行います。

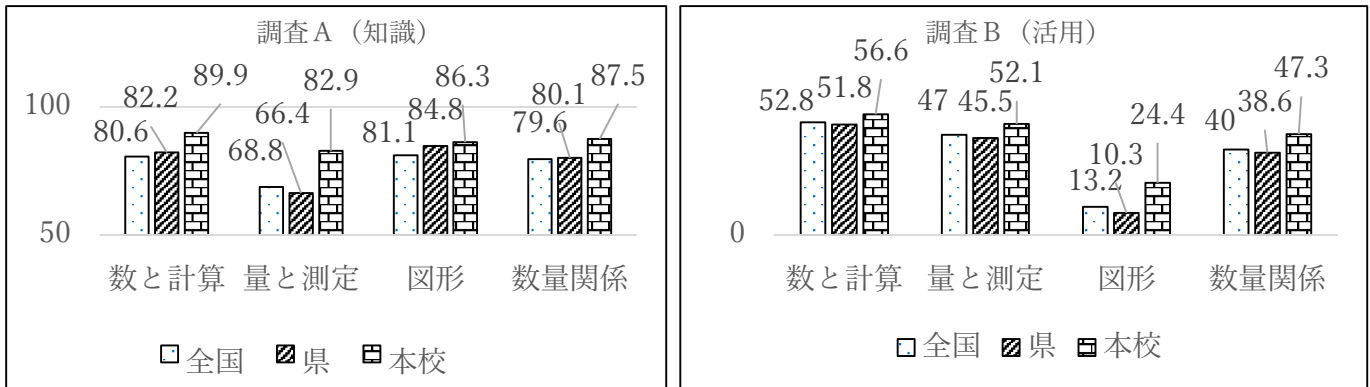
【ご家庭では】

- 音読については、毎日聞いていただくようお願いします。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上につながります。
- 新聞のコラムやニュースなどの記事を話題にあげ、表現の良さ、書き手の意図などについて家族で語り合って読み深める時間を作ってください。
- お子さんが語句の意味を尋ねたときは、辞書などで一緒に調べてその場で言葉の意味を理解する習慣を身に付けさせるようにしてください。

2 算数

(1) 結果

全国及び県正答率との比較



調査A、調査Bとも全ての領域で正答率が全国平均を上回っています。本校では全学年を通して統一した学習過程で授業を行い、基礎的な学力の定着に努めています。また、「算数タイム」や本校独自の「そろばんタイム」(中学年)などを実施しています。このような取組みが結果に表れていると考えられます。

(2) 成果と課題

数と計算

・小数の数量関係を数直線に表す問題、商を分数で表す問題では、正答率が全国平均を大きく(約 20 ポイント)上回っていました。具体的な問題場面において、乗法で表すことができる2つの数量の関係を理解しているかを問う問題では、全国とほぼ同じ正答率でした。具体的な場面を設定した問題を授業で多く取り入れていきます。

量と測定

・高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺との面積との関係を理解しているかを問う問題では、正答率が全国平均を大きく上回っていました。必要な条件を捉え、問題を解決する力がついてきていると考えられます。

図形

・立方体の面と面の位置関係を理解しているかを問う問題の正答率は全国平均を上回っていましたが、県平均とはほぼ同じ結果でした。一人一人の児童が実際に図形を操作して調べたり、書いたりする活動に力を入れる必要があると考えられます。

数量関係

・資料から二次元表の合計欄に入る数を求める問題では、正答率が全国平均を20ポイント近く上回っていました。2つの量の関係を関係図や数直線図で捉えさせたり、これらの図で表現させたりした成果が表れたと考えられます。未知の数量を表す□を用いて、問題場面を表す式を選ぶ問題は全国平均と同程度の正答率でした。数量関係を正しくとらえた上で、その関係を未知の数=□を使って式に表すような問題にも多く取組ませていきたいと考えます。

(3) 学力向上のための取組み

【学校では】

- 課題解決型の学習を継続するとともに、自分の学び具合を意識しながら学習を進める授業を展開し、自己評価力の向上を目指していきます。
- 具体的な操作活動を重視するとともに、見通しをもって自分の考えを図、式、言葉を使って筋道を立てて表現させるようにします。
- 少人数授業を積極的に取り入れ、子どもの実態に応じた指導に努めます。

【ご家庭では】

- 毎日の家庭学習の様子に目を配り、つまづいているところが解決していくよう言葉かけをしてください。また、根気よく課題に取り組んでいる姿や自学ノートで進んで学習を進めている姿を大いにほめてください。
- 買い物など日常生活の中に数量として算数で捉えられる場面がたくさんあります。計算が必要な場面や身の回りにある図形、時間や時刻など、機会をとらえて楽しく算数の力を身に付けられるような声掛けをお願いします。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校%	全国平均%
朝食を毎日食べている	95.8	95.4
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	84.9	80.0
毎日、同じくらいの時刻に起きている	91.6	91.2
平日2時間以上テレビ、ビデオ、DVDを見たり、聞いたりしている	53.8	55.7
平日2時間以上ゲーム(PC・携帯・スマートフォン等)をしている	22.7	31.1
学校図書室や地域の図書館に週1～3回以上行っている	17.7	15.6

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝たり起きたりしている児童の割合が、全国平均を上回っています。生活のリズムはおおむねできていると考えられます。
- ・テレビ等の視聴時間は、全国平均並みです。ゲームを長時間している児童は全国平均よりも低い結果ですが、長時間のテレビ等の視聴やゲーム使用が日常化している児童もいるようです。
- ・読書については、全国平均並みです。前年度、前々年度に比べると低下しており、読書の習慣化を低学年から図っていく必要があります。

《家庭学習の様子》

調査項目	本校%	全国平均%
平日、2時間以上勉強している(学習塾を含む)	37.8	27.1
土日、2時間以上勉強している(学習塾を含む)	14.3	12.2
宿題をしている(どちらかというとも含む)	98.3	96.9
予習をしている(どちらかというとも含む)	43.7	41.0
復習をしている(どちらかというとも含む)	61.4	53.8

- ・平日は家庭学習(学習塾を含む)によく取り組んでおり、全国平均を上回っています。
- ・土日の家庭学習(学習塾を含む)時間は全国平均並みです。学習内容については、宿題、予習は全国平均並みですが、復習については全国平均を上回っています。学習に取り組む児童個々の意識に差があり、それぞれの学習時間の差に直結していると考えられます。さらに家庭学習の質・量ともに充実させていく必要があると考えます。

(2) 改善に向けての取組み

【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字」「算数・国語のプリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学習メニューを紹介して、自主学習(自学)においても学年や児童の興味・関心に応じた内容に取り組むよう促し、学習内容の定着を図ります。
- 「生活がんばり習慣」「元気もりもり週間」等、全校の取組みを通して、生活習慣や読書習慣の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 生活習慣リズムはおおむねできています。「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」の習慣を続けていくよう心がけてください。一日を元気に過ごし、学習の効果を高めるためにも「朝ごはん」は栄養のバランスを考えたものをしっかり食べて登校させるようにお願いします。
- 学校での学習効果をより高めるために、前日に学習の準備を済ませ、忘れ物等がないように声掛けをお願いします。
- テレビ、ゲーム、携帯、スマートフォン等の使用については、ご家庭で時間やルールを設けて、学習習慣や生活環境を整えるようにお願いします。